令和６年９月度 理事会議事録

東部金属熱処理工業組合

１．招集年月日　令和６年８月３０日（金）
２．開 催 日 時　令和６年９月２０日（金）　１５時００分～１６時５５分
３．開 催 場 所　駐健保会館　４階　中会議室
４．理 事 総 数　２３人
５．監 事 総 数　３人
６．出席理事数　１５人（本人出席１５人）
７．出席監事数　３人（本人出席　３人）
８．出席理事の氏名

嶋崎 利行、曽根 光彰、南　直樹、玉木 寛之、安室 篤志、田村 大輔、池田 隆久、二瓶　啓、上島　健、山田　毅、横山 聡洋、竹内 博次、秦　研二、川村 道夫、後藤 章洋

９．出席監事の氏名

熊木　宏、近藤 恭二、山口 直延

１０．出席組合員の氏名

出席組合員はいない

１１．議長の氏名

嶋崎 利行

１２．決議事項に特別の利害関係を有する理事の氏名

該当する理事はいない

１３．議事の経過の要領及びその結果（議案別の議決の結果、可決、否決の別及び賛否の議決権並びに賛成した理事の氏名及び反対した理事の氏名）

定刻に至り、嶋崎理事長から挨拶があった。挨拶の後、嶋崎理事長が議長となり開会を宣し、ただちに議事に入った。

第１号議案　新年賀詞交歓会［令和７年１月２４日（金）］について

嶋崎議長の指名により、安室専務理事から、令和７年１月２４日（金）［東京グランドホテル］開催予定の新年賀詞交歓会の次第案及び講演会講師について説明があった。

① スケジュールとしては、正副理事長会～理事会～賛助会員 PR 会～講演会～懇親会の予定。
② 講演会については、東京都中小企業団体中央会の「団体連携型 DX 人材育成推進事業」（経費の一部を助成する事業）を活用する予定。講師：テラスケープ合同会社　代表　足立聖昭（あだち まさあき）氏、足立講師から、熱処理業界の情報を得るためにアンケート調査（Google フォーム）の協力と工場見学の実施について依頼があった。

嶋崎議長から、正副理事長会と理事会は予定通り行うこととして、ホテル側に費用軽減の交渉を行うように事務局に指示があった。

嶋崎議長から、講演会については、短い時間なので熱処理業界に役に立つことにテーマを絞ることとアンケート調査についても簡略な内容にすることを足立講師に依頼するように指示があった。

嶋崎議長は、新年賀詞交歓会について議場に諮ったところ、全員異議なく承認された。

第２号議案　（一社）日本金属熱処理工業会：外国人技能実習制度について

嶋崎議長の指名により、安室専務理事から、資料に基づき、一般社団法人日本金属熱処理工業会で取組んでいる外国人技能実習制度の評価試験の申込状況について報告があった。１回目が４月２６日に愛知県で全体熱処理２名の評価試験が行われ、２回目が１１月２７日、広島県で部分熱処理６名の予定で、それ以降１２月に３件（大阪府：全体熱処理２名、岐阜県：部分熱処理２名、三重県：全体熱処理２名）の予定があることと東部エリアでは、令和７年１月に茨城県の組合員企業で部分熱処理２名の試験が決まっていることの報告があった。日程調整中の評価試験として、広島県：全体熱処理３名、表面熱処理 3 名、埼玉県：全体熱処理２名、群馬県：全体熱処理２名、愛知県：全体熱処理１名の申込みがあることの報告があった。

続いて、特定技能については、一般社団法人日本金属熱処理工業会が外国人技能実習制度の評価試験実施機関になったことから、受入れの準備をすることになり、経済産業省の問題作成委員会に委員を派遣していることと一般社団法人製造業特定技能人材機構の法人設立が遅れていることの報告があった。

嶋崎議長から、非組合員企業からも評価試験の申込みが来ているので、組合加入の勧誘をしたら良いのではないかと意見が述べられた。

嶋崎議長は、外国人技能実習制度について議場に諮ったところ、全員異議なく承認された。

第３議案　青年部会の活動状況について

嶋崎議長の指名により、安室専務理事から、資料に基づき、１０月３０日（水）、３１日（木）開催の「組合まつり in YOKYO」について説明があった。主な内容は、次の通り。①組合ブースの位置（も－１１）は前回と同じ入口を入ってすぐの場所になったこと。②展示品についても前回同様に和鋼博物館から日本刀（模擬刀）と玉鋼等を、組合員企業から映像と熱処理サンプル品を借用すること。映像の使用については、関係理事・監事の了承を得る。③熱処理の実演として、カセットコンロとピアノ線を使った「焼入れ、焼戻し」を検討し、東京都中小企業団体中央会と運営事務局側を通じて会場の国際フォーラムに確認したが、消防法の関係があり条件が厳しいため正副部会長で検討し、実施を見送ることになったこと。④費用に対しては、未確定の部分があるが、予算２０万円に対して１０万円程度の経費で収まる見込みであること。

山田部会長から、青年部会で盛り上げるので、来場についてのお願いが述べられた。

続いて、安室専務理事から、「出前授業」について資料に基づき、説明があった。主な内容は、次の通り。①開催日時及び会場等が決定したこと。令和６年１２月１１日（水）６限目（１３：３０～１４：２０）、東京都立多摩工科高等学校化学実験室、対象：デュアルシステム科１年Ｆ組３４名。②プレゼン資料については、各委員会グループで担当コンテンツについて作成中。③実習については、ピアノ線の「焼入れ、焼戻し」。④アンケートを実施する。（生徒用、先生用を用意する。）⑤配布資料については、工業会のパンフレットを予定。プレゼン資料の配布について、検討する予定。

山田部会長から、将来的に安定して行えるようになったら、組合員企業の近くの工業高校等に行って採用活動の一助になればと考えていることの説明があり、協力要請があった。

嶋崎議長から、プレゼン資料のコンテンツの作成について質問があり、山田部会長から各委員会グループでそれぞれのコンテンツを作成し、最終的に一つにまとめて統一性を持たせることの説明があった。

嶋崎議長から、５０分の授業で何を与えたいのかと質問があり、山田部会長から「熱処理って楽しい」のではないかと印象を与えたい。熱処理の勉強をするということではなく、自分の生活にこんなに影響をしていることを知ってもらいたいことと今後は、生徒の反応を見て、改善する部分は改善してブラッシュアップして行きたいと説明があった。

川村理事から、デュアルシステム科を選んだ理由について質問があり、山田部会長から自社がお世話になっている先生との繋がりから実現することになったことの説明があった。

嶋崎議長から、「組合まつり」とも底辺で繋がっているが、組合内で育てて行って人材確保に繋がればと考えている。

田村理事から、経済産業省の素形材室でも学校の紹介について相談に乗ってくれるという話があることの説明があり、嶋崎議長から今後活用できれば良いと述べられた。

嶋崎議長から、青年部会の活動状況について議場に諮ったところ、全員異議なく承認された。

第４号議案　各委員会等の活動状況について

嶋崎議長の指名により、安室専務理事から７月２４日に開催された令和６年度第２回BCP 推進 WG について報告があった。主な内容としては、先ずオブザーバーとして、関東経済産業局伊藤係長と松山技研㈱高柳係長の出席があったこと。①関東経済産業局からの情報提供（水災リスク診断、リスクファイナンス判断シート）。②令和６年度の活動内容について（メンバー２０社で実績を残すことを優先すること。２０社の規模を把握するための情報共有、情報伝達の訓練の実施）、③第３回は、危機管理産業展の視察を兼ねて行う。　　嶋崎議長から、今後何を行うか、戦略を示して、それを達成することで何に繋がるとい　うようなロードマップを説明して欲しいと述べられた。

玉木副理事長から、まず２０社の情報（各社の立地や設備等）を把握し、BCP が発動された際の初動対応で各メンバーの動きについて作成してあるフローチャート通りに実際に動けるのかを確認したいと説明があった。

続いてリスクファイナンス判断シートについて説明があった。被害想定と被害額が示され、それをどこから算出するのかまで入力出来るようになっている。

後藤理事から、リスクファイナンス判断シートについては、被害のレベルによって被害額が変わって来るのではないかと質問があり、玉木副理事長から、地震を想定していると説明があった。熱処理業の場合は、熱処理炉を守る対策をどうして行くかになる。

後藤理事から、自社としては BCP の策定自体もままならない状況で、しっかり策定している企業との温度差があるのではないかと質問があり、玉木副理事長から、BCP については正解が無いので、経営者が一番嫌なことをピックアップして出来るところから対策を考えて行くことになると説明があった。WG では、BCP の策定支援も行っているが、水平連携も進めなければいけないことでバランスが取れていないことも説明があった。

嶋崎議長から、最低限の水準を決めないといけない。ある程度レベルを合わせるまでは、支援をして、最終的に広域連携を目指していることの説明があった。

玉木副理事長から、BCP のツールを使って作成した内容を確認し、分からないところについてサポートするように考えていると説明があった。

後藤理事から、水平連携のことになると従業員では判断が出来ないので、戸惑っていると思う。

川村理事から、BCP は経営者の判断になるので、各企業が同じようには出来ないと意見があった

嶋崎議長から、利害が絡むので、ある程度レベルが上がって来たら、事業継続のための仕組みを作りたいので、毎回見直しを行って戦略を考えないといけないと述べられた。

田村理事から、自治体で４回までの無料のコンサルを受けて、BCP を見直したことがあるので、そのような支援を活用するのも良いのではないかと意見があった。

続いて安室専務理事から、９月５日開催の第２回総務委員会について議事録に基づき、報告があった。主な内容としては、①SDGs セミナーの内容について（検討した結果、３つのテーマ［１．世界を含めた自動車業界の動向について、２．政策的な内容として、炭素賦課金や炭素税について、３．エネルギー（電気・ガス・水素）の動向について］に絞り、中小企業基盤整備機構の支援事業を活用して講師の派遣について相談する。）、②組合 HP（動画を作成し、情報発信について、中級熱処理塾のレポートのアップについて）について、③外国人技能実習制度について。

熊木総務委員長（監事）から、動画の作成については案であり、具体的な予算や作成方法など決まっていないことと継続して検討して行きたいことの説明があった。

嶋崎議長から、業界の情報発信としては良いのではないかと述べられた。

田村理事から、中級熱処理塾のレポートについて質問があり、熊木総務委員長からすぐに組合 HP にアップすることの説明があった。

続いて安室専務理事から、９月６日開催のマーケティング委員会について議事録に基づき説明があった。主な内容については、①第７回価格サポートセミナーについて（会場の都合で１１月２２日から２９日に変更、関東経済産業局の麻生課長と金野係長の参加、対面開催、価格交渉について６テーマについてグループディスカッション）、②加工価格調査・運送費調査について（回答率４８．７％、７８社中３８社）、③市場動向に関する情報交換。

続いて９月１１日に開催された技術・品質合同委員会について議事録に基づき説明があった。主な内容については、①「初級熱処理塾」のスポット受講及び日程の見直しについて（２日目から９日目からの科目のスポット受講について、受講料については１日１０，０００円、日程の見直し（週３日または２日で４週、週２日で５週、開始時期を４月→１０月に）、②事業報告及び計画について（ISO 内部監査員養成研修会については、１０月にオンライン開催、第８回品質活動発表会は、メーカー監査対応で開催、７月２０日、２１日開催の技能検定試験受験対策講習会の報告、実践型熱処理塾については、中外炉工業㈱と交渉中、１２月６日工場見学会（㈱SUBARU 航空宇宙カンパニー）、③東京都の金属熱処理技能検定試験報告。委員会終了後に東京都立産業技術センターと対面で業種別交流会を開催し、施設見学と意見交換を行った。

横山理事から、講習会の講師不足について報告があり、講師の派遣について協力要請があった。続いて先日、組合加入の説明で訪問した企業に理由を伺ったところ、組合の教育事業に興味があると加入に前向きだったが、熱処理に関する講習会が下期に無いことから、加入時期を考えたいと意見があった。１年間満遍なく熱処理の講習会を企画する必要があると感じたと説明があった。

嶋崎議長から、自前の講師の育成について協力要請があった。
嶋崎議長は、委員会活動について議場に諮ったところ、全員一致で承認された。

第５号議案　報告事項その他について

南副理事長から、１０月３日、４日開催の第４３回日熱会（東部組合幹事）について報告があった。

嶋崎議長から、明日２１日に東京工業大学の第８期金属熱処理スーパーマイスター・プログラムの修了証書授与式が行われることの説明があり、修了生の派遣企業について謝辞があった。また、来年第９期を推進して行くことの説明があった。

以上をもって、議案全部の審議を終了したので、議長より閉会を告げ散会した。

令和６年９月２０日

東部金属熱処理工業組合理事会

議長理事　嶋崎 利行　㊞

出席理事　曽根 光彰　㊞

〃　南　直樹　㊞

〃　玉木 寛之　㊞

〃　安室 篤志　㊞

〃　田村 大輔　㊞

〃　池田 隆久　㊞

〃　二瓶　啓　㊞

〃　上島　健　㊞

〃　山田　毅　㊞

〃　横山 聡洋　㊞

〃　竹内 博次　㊞

〃　秦　研二　㊞

出席理事　川村 道夫　㊞

〃　後藤 章洋　㊞

出席監事　熊木　宏　㊞

〃　近藤 恭二　㊞

〃　山口 直延　㊞